

【法人本部（庶務課）事業報告】

1. はじめに

法人第4期中期経営計画（2016年～2021年）の4年度目の今年度は、課題となっていた法人組織の見直しと関連規程等の見直しを行い、組織のスリム化と職員各人がスキルアップでき目標をもてる改定に取り組んできました。

介護人材の不足は全国的なものでありますが、次年度以降も、職員がやりがいを持って働き続けることができる職場づくりと、多様な人材の確保に向け取り組んでまいります。

平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震を機に、課題となっていた災害による大規模停電に備える対策につきましては、国の補助事業の活用と上士幌町からの補助金により、すずらん荘に非常用自家発電設備を整備いたしました。すずらん荘と一体施設である高齢者生活福祉センターの電力確保も可能となり、入居者や利用者はもとより、福祉避難所として介護が必要な高齢者や障がい者の生活上の安全確保も図られることになりました。

自然災害については、近年では夏の暑さも一つの災害となっており、入居者の体調管理も大きな課題となっていました。上士幌町との協議の結果、令和2年度はすずらん荘とむかし館を町の補助金で法人が整備、令和3年度は高齢者生活福祉センターを町が整備する計画となりました。

今年度は感染症により体調を崩した入居者や利用者はいませんでした。年度末が近づいた令和2年2月、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、厚生労働省からの通知等により、2月26日より法人全館の立入制限と地域交流スペースでの地域食堂等の行事の中止、また学生アルバイトやボランティアポイントの受け入れを中止いたしました。

現在も収束のめどはなく、長期化することも考えられることから、令和2年度の事業計画が一部変更になる可能性もありますが、まずは、入居者や利用者と職員の感染拡大防止に向け全力で取り組んでまいります。

以下、令和元年度事業計画に掲げた4つの重点目標について報告いたします。

2. 重点目標の成果と課題

(1) 経営の安定

1) 組織体制の再編と諸規程等の見直し

令和2年4月からの施行に向け、組織のスリム化を目的とし、法人組織の見直しと、関連規程の改正がおこなわれました。

法人行事である夏祭りについても、これまで入居系事業所の職員が実行委員となっていて行ってきましたが、法人全体の行事であることから次年度からは各事業所主任職以上が実行委員となり、全職員が自身の役割にやりがいを持って取り組めるよう進めてまいります。

2) 人材の確保と定着に向けた取り組み

平成30年度に介護アシスタントとして雇用した3名と学生アルバイト2名はリネン交換や清掃等、非直接介護業務を担う役割として継続して働いていただくことができました。また、今年度の介護職員初任者研修を終了した高校生も1名、大学進学までの間でしたがアルバイトとして来ていただきました。

しかし、介護職員初任者研修については9名の受講者がいましたが採用につなげることができませんでした。また、すずらん荘花壇整備ボランティアについても参加者(上士幌高等学校生)12名のうち8名が3年生でしたがいずれも進学を希望しており採用にはつながりませんでした。

求職者等へのアピール方法として、ホームページの充実に向け更新回数を増やしましたが結果にはつながらず、次年度への課題となりました。

介護職員の定着と労働環境改善を目的に、ICT化導入の検討を計画しましたが、様々な機器があることや導入費用も掛かることから、次年度以降も継続して検討してまいります。

介護人材の確保と定着については、次年度も引き続き重点目標に掲げ、多様な人材の確保について検討を行うとともに、計画的な育成を行い、限られた人数でより効率の良い業務を行っていきたいと考えています。

3) 収入増、支出減に向けた取り組み

法人全体でみると、事業活動収入額は前年度比102.5%と若干ですが収入増となりました。また、毎月定例の法人内会議において業績の検討や目標数値の見直しを行い、購入品の節約等、支出減に向けた取組みを行った結果、令和元年度の資金収支に関しては、当初予算では法人全体で収支差額マイナス約623万円を見込んでいましたが決算額では約271万円の黒字決算で終えることができました。

次年度も業績向上と財務の安定を目標に掲げ、経営の安定に向けて取り組んでまいります。

(2) 介護報酬改定に伴う対応策(中期経営計画記載事項)

10月から、消費税増税に伴う介護報酬の基本単価の引上げと、介護職員等特定処遇改善加算がスタートし算定取得をいたしました。介護職員等特定処遇改善加算については約342万円の加算取得額となり、その全額を一時金として支出いたしました。次年度以降は、一部を基本給に組み込むなどを検討し、介護職員の処遇改善に取り組んでまいります。

(3) 地域包括ケアシステムの構築(中期経営計画記載事項)

1) 法人内連携

平成30年度まで3つの会議に分かれていた、各事業所の主任職以上が出席する会議を「福寿を良くする会議」1つに包括し1年間開催してきました。会議の活性化については、進行の仕方など前年から継続した課題がありますが、7月から課長会議を毎月定例で開催を始めたことで、さらに各事業所間の共通意識を深めることができました。今後も会議の活性化と事業所間の連携の強化を図ってまいります。

2) 介護・医療・福祉連携、上士幌町社会福祉協議会等関係機関との連携

社会福祉協議会との役員懇談会については計画通りに2回開催し、1回目は両法人の事業計画を確認し、2回目は外部講師を招き地域包括ケアシステムについて聴講し課題の共有と意見交換を行いました。また、年度末には上士幌町社会福祉協議会のご厚意により、福祉車両（中古）を無償譲渡いただけることになりました。次年度以降も福祉・介護の課題を共有することで更なる相互協力を目指してまいります。

医療との連携については、社会医療法人北斗が当法人の協力病院でありまた嘱託医でもあることから、必要時には日常的に相談や連絡が行えることができました。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止への取組については、町内の老健・デイケアと随時情報交換を行い、共通した対応ができるよう進めてきました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の取組は長期的になる可能性もあることから、今後も各関係機関との連絡・連携の強化に努めてまいります。

3) 地域交流スペースの活用

今年度も地域食堂の取組やほっこり仲間の会の活動、各団体の利用などにより年間延べ利用者数は3千名を超え、沢山の地域の方々に来館していただくことができました。2月26日から新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用制限中ではありますが、再開時にはこれまでと同様、地域住民の社会参加活動の支援ができるよう取組んでまいります。

(4) 高品質サービスの同質化（中期経営計画記載事項）

1) ケアの経過及び結果の理論化

法人内実践発表を通じて、自事業所の日頃の取組や結果の振り返りと評価を行いました。また前年度同様に運営推進会議委員、法人役員、評議員の方々にも来場いただき発表事業所のケアの取組状況を聴講していただきました。

次年度以降も地域住民の方々に法人のケアの取組を聞いて頂ける機会を作り、評価していただく事でケアの質の向上を図っていきたいと考えています。

2) 職員の育成と理念の共有

研修に関しては、主任職以上を対象にトータルケアプログラム研修を実施し、健康管理・排泄ケア・認知症ケアとそれぞれに必要な医療知識について学ぶことができました。

また、全職員を対象に全体研修として、認知症対応、看取り、感染症対策、虐待、法令順守、ハラスメント、救命救急等について研修を行い、専門職としての質の向上に取り組みました。

次年度は、全体研修の一部を各グループでの研修に変更し、より現場に近い内容で行えるよう取組んでまいります。

3. 法人運営状況

(1) 理事会

回	期日	議決事項等	出席者
1	5/22	<ul style="list-style-type: none"> ・旅費規程の一部改正 ・慶弔見舞金規程の一部改正 ・平成30年度事業報告 ・平成30年度計算関係書類及び財産目録の承認 ・6月賞与の支給率 ・次期役員候補者の確定 ・令和元年度定時評議員会の招集について 	理事 4 名 監事 2 名
2	6/6	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次補正予算（案） ・令和元年度定時評議員会の招集について 	理事 6 名 監事 2 名
3	6/12	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長及び常務理事の互選 ・評議員選任解任委員の選任 ・苦情解決第三者委員の選任 	理事 5 名 監事 2 名
4	6/19	<ul style="list-style-type: none"> ・すずらん荘非常用自家発電設備整備事業に係る入札について 	理事 4 名 監事 2 名
5	7/10	<ul style="list-style-type: none"> ・すずらん荘非常用自家発電設備整備事業に係る契約の承認 	理事 5 名 監事 2 名
6	9/12	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次補正予算（案） ・北海道最低賃金改定に伴うパート賃金の改定 ・第2回評議員会の招集について 	理事 6 名 監事 2 名
7	11/28	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次補正予算（案） ・12月賞与の支給率 ・第3回評議員会の招集について 	理事 5 名 監事 2 名
8	3/12	<ul style="list-style-type: none"> ・3月賞与の支給率及び令和元年度特定処遇改善加算金の支給 ・第4次補正予算（案） ・法人組織の見直し ・処務規定の一部改正 ・職員給与規程の一部改正 ・慶弔規程の一部改正 ・令和2年度事業計画（案） ・令和2年度収支予算（案） ・施設長等の選任 ・第4回評議員会の招集について 	理事 5 名 監事 2 名

(2) 評議員会

回	期日	議決事項等	出席者
1	6/12	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度計算関係書類及び財産目録の承認 ・第1次補正予算（案） ・理事 6 名及び監事 2 名の選任 	評議員 6 名 監事 2 名
2	9/19	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次補正予算（案） 	評議員 6 名 監事 2 名
3	12/5	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次補正予算（案） 	評議員 7 名 監事 2 名

4	3/23	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次補正予算（案） ・令和2年度事業計画（案） ・令和2年度収支予算（案） 	評議員6名 監事2名
---	------	---	---------------

(3) 監査・実地指導

1) 内部監査

回	期日	主な監査項目	実施者
1	5/14 5/15	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業現金預金、定期預金と残高証明書の突合 ・資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表の内容及び整合性の確認 ・出勤簿、時間外命令簿、旅費請求書、旅行命令簿、休暇届の確認 ・業務委託契約書の確認 ・理事会、評議員会議事録の確認 ・復命書の確認 ・寄付金領収書の確認 ・固定資産管理台帳と現地確認 	監事2名
2	8/28	<ul style="list-style-type: none"> ・資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表の内容及び整合性の確認 ・預金通帳、預金証書との突合及び定期預金証書の確認 ・各サービス区分小口現金の確認（残高確認） ・入所者預かり金の確認 ・理事会、評議員会議事録の確認 ・物品等購入契約書の確認 	監事2名
3	11/26	<ul style="list-style-type: none"> ・資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表の内容及び整合性の確認 ・預金通帳、預金証書との突合及び定期預金証書の確認、出資証券の確認 ・各サービス区分小口現金の確認 ・理事会、評議員会議事録の確認 ・支出何書、会計伝票の確認 ・給与振込協定書等の確認 ・施設入所者利用料金滞納の確認 <p>提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慶弔規程について。利用者への香料は法人からのみの支出で良いのではないか 	監事2名
4	2/28	<ul style="list-style-type: none"> ・資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表の内容及び整合性の確認 ・預金通帳、預金証書との突合及び定期預金証書の確認、出資証券の確認 ・各サービス区分小口現金の確認 ・理事会、評議員会議事録の確認 ・支出何書、会計伝票の確認 	監事2名

2) 任意監査

回	期日	主な監査項目
1	4/26	平成 31 年 3 月分 1. 各サービス区分の総勘定元帳確認 2. 各サービス区分の会計伝票内容確認 3. 各サービス区分の支出何書内容確認、突合 4. サービス区分間繰入金収入及び支出の相対性確認 5. 預金通帳、預金証書との突合 6. 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表の内容確認、上記計算書類の整合性確認
2	5/13	平成 30 年度決算監査 1. 固定資産管理台帳の突合 2. 減価償却費の突合 3. 国庫補助金積立金の突合 4. サービス区分間繰入金収入及び支出の相対性確認 5. サービス区分間貸付金及び借入金の相対性確認 6. 未収金及び未払金の取引先残高確認 7. 資産及び負債科目の残高確認 8. 預金残高証明書との突合 9. 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表付属明細書、注記の内容確認。上記計算書類の整合性確認 10. 財産目録の確認 11. 付属明細書の確認 12. 社会福祉充実残額の確認
3	6/5	平成 31 年 4 月分 1. 各サービス区分の総勘定元帳確認 2. 各サービス区分の会計伝票内容確認 3. 各サービス区分の支出何書内容確認、突合 4. サービス区分間繰入金収入及び支出の相対性確認 5. 預金通帳、預金証書との突合 6. 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表の内容確認、上記計算書類の整合性確認
4	7/26	同上 (1~6) 5 月分
5	8/23	同上 (1~6) 6 月分
6	9/12	同上 (1~6) 7 月分
7	10/18	同上 (1~6) 8 月分
8	10/29	同上 (1~6) 9 月分
9	11/27	同上 (1~6) 10 月分
10	12/23	同上 (1~6) 11 月分
11	1/29	同上 (1~6) 12 月分
12	3/4	同上 (1~6) 1 月分 打合せ。収入何書を本日分より作成していく。
13	4/3	同上 (1~6) 2 月分

3) 上士幌町助成事業の実績報告に係る現地調査の結果

日時	5/8	場所	高齢者生活福祉センター相談室
調査対象	1. 特別養護老人ホーム助成事業 2. 在宅福祉サービス助成事業 3. 介護度改善に対する助成事業		
町担当者	上士幌町保健福祉課 尾形課長、塩澤主幹		
出席者	野口庶務課長		
調査結果	適正である。		

4) 障害者総合支援法による実地指導の結果

日時	11/20	場所	高齢者生活福祉センター相談室
対象事業	指定障害者居宅介護事業所（ホームヘルプサービス）		
監査者	十勝総合振興局保健環境部社会福祉課 若園事業指導係長、他 1 名		
改善を要する事項	指摘事項なし		

5) 介護サービス事業所に対する実地指導の結果

日時	11/21 11/22	場所	21 日、高齢者生活福祉センター相談室 22 日、こまくさ苑 2 階会議室
対象事業	居宅介護支援事業所ひまわり、認知症高齢者グループホームむかし館 地域密着型特別養護老人ホームこまくさ苑、小規模多機能型居宅介護 まつば		
監査者	上士幌町保健福祉課 塩澤主幹、他 2 名		
文書及び口頭による指摘事項	なし		

4. 会議開催状況

(1) 福寿を良くする会議

(毎月第3火曜日開催。参加対象=各部署主任職以上)

開催日	主な協議事項・議題
4/16	<ul style="list-style-type: none"> ・業績検討とサービス向上計画実行シートに係る様式について ・トータルケアプログラム研修の進め方について ・文書保存規程の見直しについて
5/21	<ul style="list-style-type: none"> ・上士幌高校との関わり（ボランティア受け入れ）詳細検討 ・ラン伴について ・介護福祉士受験対策勉強会内容検討 ・法人全体研修の講師と使用会場について
6/18	<ul style="list-style-type: none"> ・トータルケアプログラム研修の資料の事前準備について ・上士幌町介護職員初任者研修について ・介護福祉士受験対策勉強会の開催について ・法人実践発表の発表事業所の選定
7/16	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士受験対策勉強会の参加者の確定と勤務配慮について ・十勝経営懇談会の参加者の確定について ・7区合同避難訓練について
8/20	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員初任者研修受講者の施設見学受入れについて ・町内盆踊りへの参加について ・ケース検討
9/17	<ul style="list-style-type: none"> ・法人実践発表会詳細検討 ・消火訓練の開催について ・消費増税に伴う介護報酬改定について
10/15	<ul style="list-style-type: none"> ・法人実践発表の結果について ・上士幌中学校職場体験学習の受け入れについて ・行事(民謡披露)について ・介護報酬改定に伴う重説・同意書の取り交わしについて
11/19	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りのアンケートについて ・非常時連絡網の作成について ・年忘れ会の開催について ・職員親睦会について
12/17	<ul style="list-style-type: none"> ・法人ホームページの充実について ・令和2年度夏祭りについて ・第5期中期経営計画の策定と、スケジュールについて
1/21	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り実行委員会の立ち上げについて ・令和2年度資格取得助成の募集について ・普通救命救急の受講について
2/19	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度年間全体研修の計画について
3/19	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末全体会議の詳細について ・特定処遇改善加算に伴う一時金の支給について ・組織の見直しの伴う共通様式の変更について

5. 研修会・行事開催状況

(1) 役員研修

日程	研修内容	出席者
4/25	十勝社会福祉施設経営者懇談会 研修会 「福祉施設における事業継続計画（BCP）策定」	理事長
6/27	十勝社会福祉施設経営者懇談会 理事長懇親会 「介護分野における特定技能について」	理事長
7/26	十勝社会福祉施設経営者懇談会 担当者会議 「介護職の魅力・働き甲斐を伝えるプロジェクト」	常務理事 事務員
10/24	北海道社会福祉協議会 「社会福祉法人（社会福祉施設）監事研修」	常務理事
12/10	北海道社会福祉協議会 「法人役員専門研修（社会福祉施設）」	理事長

(2) 法人職員全体研修

回	開催日	内容	参加者
1	4/15	トータルケアプログラム研修 (講師) 高齢者ケア研究会 研究委員長 泉田照雄氏	52名
2	5/21	看取りについて (講師) 北斗上士幌クリニック 川原義典医師	48名
3	7/16	コンプライアンスについて (講師) 上士幌福寿協会 河田課長補佐	47名
4	8/20	高齢者虐待について (講師) 地域包括支援センター帯広至心寮 川向優子氏	41名
5	9/17	法人内実践発表 すずらん荘、むかし館	職員 59名 役員等 13名
6	10/23	感染症予防について (講師) 上士幌福寿協会 高田看護師	47名
7	随時	ハラスメントについて 各事業所において厚労省作成テキストにより実施	全職員
8	2/17 2/18	普通救命講習 I (2日間開催) (講師) 上士幌町消防職員	2日間 70名

(3) トータルケアプログラム研修

回	開催日	内容	参加者
1	4/15	・人材確保対策について ・認知症のタイプ分類とBPSDへの対応	15名
2	7/5	・事例検討（痰を吐き続ける方について） ・排泄ケアについて、下剤の知識について	16名
3	11/18	・人材確保対策について ・BPSDに対応する向精神薬使用ガイドラインについて	17名

(4) 法人全体行事

実施日	内 容	参加者
5/9	施設周辺道路清掃	当日出勤職員
7/20	7区町内会合同避難訓練	全利用者、当日出勤職員、7区各班長
8/4	夏まつり	全利用者、全職員、ボランティア、町民
2/5	アイスクャンドル	利用者、ほっこり仲間の会、町民

6. ボランティア受入状況

実施日	内 容	ボランティア団体名	参加者
5/30	法人敷地内花壇 花植え	上土幌町民生委員児童委員	15名
6/30	法人敷地内 庭木剪定	上土幌町年金者連盟	18名
8/4	夏まつり	ほっこり仲間の会 みどり会 フリーフライト 上土幌高校生徒 帯広コア専門学校介護福祉科学生 帯広大谷短期大学学生	21名 9名 7名 5名 8名 3名

7. ほっこり仲間の会活動状況

定例	開催日	内 容	参加者
1	4/25	委員会「令和元年度実施事業の確認」	13名
2	5/16	委員会「夏まつり屋台販売の打合せ」	9名
3	6/20	委員会「環境整備打合せ」「ビアパーティ打合せ」	13名
4	7/18	委員会「夏まつり日程・借用物品・参加者確認等詳細打合せ」 事業①こでまり内の清掃、整理整頓。軒下の雑草取り等 事業②ビアパーティ	17名
	8/4	事業③夏まつり屋台販売、車両5台貸出	21名
5	9/19	委員会「夏まつり反省」	16名
6	10/17	委員会「そば打ち体験実食会の詳細打合せ」	12名
7	11/14	事業④そば打ち体験実食会開催	17名
8	12/19	事業⑤こでまり年末大掃除 委員会「アイスクャンドル打合せ」	15名
9	1/16	委員会「アイスクャンドル詳細打合せ」	16名
	1/23～ 2/4	事業⑥アイスクャンドル作成	延べ130名
	2/5	事業⑥アイスクャンドル点灯式	15名
10	2/20	委員会「アイスクャンドル事業総括」	15名
11		3月定例会は新型コロナウイルス感染拡大防止により中止	

8. 各種委員会開催状況（毎月第3火曜日開催。参加対象=各部署主任職以上）

開催日	感染対策委員会		
	件数	内容	委員会決定事項
4/16	0		・インフルエンザ流行終息したためうがい対応終了
5/21	0		
6/18	0		
7/16	0		・食中毒予防の徹底
8/20	0		・食中毒予防の徹底
9/17	0		・食中毒予防の徹底
10/15	0		・アイオサーブから医薬部外品の手指消毒剤に変更 ・衛生手洗いの徹底
11/22	0		11/26 緊急委員会開催 ・管内インフルエンザ流行によりすずらん荘一部面会制限 12/2 緊急委員会開催 ・町内インフルエンザ流行によりすずらん荘面会制限、立入制限
12/17	0		
1/21	0		・職員1名インフルエンザ発症、その後治癒
2/18	0		・町内インフルエンザ流行により健診等不急受診中止。 ・新型コロナウイルス注意喚起 2/25 緊急委員会開催（全看護職出席） ・新型コロナウイルス感染予防のため厚労省通知に沿った対応の検討 ・全館面会立入制限・当面こでまり行事中止 ・バイト、ボラの受け入れ中止・職員、利用者の検温実施 ・マスクの配給制開始
3/17	0		・新型コロナウイルス感染拡大防止対応の継続 ・厚労省通知等の確認・具体的対応の検討
合計	0		

開催日	褥瘡対策委員会		身体拘束検討委員会		介護事故防止委員会	
	件数	特記	件数	内容	件数	内容
4/16	3		0		0	
5/21	0		0		1	特養=転倒骨折
6/18	0		0		1	密着特養=車中で転倒
7/16	0		0		2	GH=転倒骨折 通所=単独外出
8/20	0		0		0	
9/17	1		0		1	密着特養=転倒骨折
10/15	0		0		0	
11/22	1		0		1	GH=お茶でやけど
12/17	0		0		0	
1/21	0		0		0	
2/18	1		0		0	
3/17	1		0		0	
合計	7	実人数5名	0		6	実人数6名

【指導課 特別養護老人ホーム上土幌すずらん荘事業報告】

1. はじめに

介護人材の不足は続いており昨年度3名の新規採用がありましたが3名の退職者があり、結果的には不足を解消することにはなりませんでした。しかしながら、定員数の欠員を続けていくことは経営上厳しく、今いるスタッフでどのようにしたらケアの質を落とすことなく利用者の増員を行えるかを考えながら日々業務をおこなってまいりました。

一昨年行ったユニットの統合により、介護度に応じた見守り体制で見守ることができプライベートスペースの確保もできる現在の形態に落ち着くことができました。

その結果介護職員の可動域も広がり現在47名まで入所者を回復することができました。ケアの質、利用者様の満足度については、「ここでよい」というゴールはないので、日々振り返りよりよいケアを模索しています。

さらに昨年末より流行の始まったコロナウイルスの対応については、すずらん荘独自の対応ではなく、法人全体の対応に加え厚生労働省などから日々配信される対策や注意事項に遅れることなく全力で対策を講じる毎日です。年末から始まった面会制限も長期に及び利用者様ご家族の方の心配、お気持ちはいかばかりかと推察されますが、現状のご理解をいただくためにこまめに契約者様に状態をお伝えするよう対応させていただいており、現在のところご理解をいただいている状況です。

2. 重点目標の成果と課題

(1) 利用者本位のサービスの推進

1) 過ごしやすい環境作り

サロン内の設えについて、利用者の方のニーズや状態に合わせて家具の配置や食事席を変えることが出来ました。利用者の方や職員が動きやすい動線になるようにその都度、意見を出し合い環境作りを行うことが出来ました。

また、2つの使用していないサロンの空間作りを行う予定をしていますが、時間を作ることが出来ず雑然としたままになっている状況です。空きサロンの活用法として娯楽スペースを作る案が出ているため、次年度行います。

2) 外出外食等の実施検討

外出機会の少ない入所者の楽しみのため、積極的に外出することを目指した結果、ナイトテラス・土幌道の駅・商工祭りや、入居者の方の日用品購入の際、一緒に買い物に町内外に行くことが出来ました。また、病院受診後に外食をして来る方もいました。冬期間については、感染症の予防のため外出は行いませんでしたが、外に出ることで利用者の方や同行職員の表情が荘内にいる時と違うこともあり、良い刺激になっていると感じました。出かける機会を増やしたいと思いますが、外出対応可能な職員配置をシフト作成時に組み込んでいくなど、前段階の十分な計画も必要と感じました。

3) 日常の中の楽しみを実施

大きな行事としては、年忘れ会を行い、日ごろ食事などを一緒にできない家族の

方と食事を共にしていただく機会としました。

一方、利用者の重度化により、夜間の居酒屋を中止し、それに代わるものとして7月におやつ屋さんを試験的に実施し利用者さんにはおおむね好評でした。昼食作りを行い一緒に作る、食べることで会話も弾み、新たな一面を見ることが出来たことや、クリスマスケーキを購入し利用者・職員みんなで食べ、好評でした。

また、介助を必要とする方が増えたこともあり、楽しみになるようなことを企画・実施するまでの余裕がない状況もありましたが、利用者の方が楽しめることの企画や、楽しみになるものは何か、利用者の方の得意とすることなどを知り実行できるようにしてまいります。

4) その人らしさの把握と援助

一人一人のことを理解しその人らしさを踏まえたケアを目指し、ケアの質を高め統一したケアを提供するために、利用者への共通した理解や提供するケアの根拠を模索していますが、考え方や捉え方が違う職員には繰り返し個別に指導していくことが必要で長期にわたる課題と考えています。

(2) 経営の安定

上半期には退所者が多く、入所者を上回る状況であり、下半期から退所者が減り、順調に入所者を増やすことができ、入所者数を47名まで回復しましたが、一方で入院は19名23回405日と過去10年で最多の入院日数となりました。内訳は脳梗塞、糖尿病原因の指の壊死、脳腫瘍等、基礎疾患が原因の入院が、13名16回、転倒骨折や誤嚥性肺炎のように予防でき改善の可能性のある入院は6名7回でした。

また、年度内に入所し退所した方が6名となり、入所当初から90歳以上の超高齢な方(8名)や、癌や脳疾患等の重篤な疾患を抱えた方(7名)の入所が顕著になり、この傾向は、今後も続く予想されます。

入所者数が昨年度より増加したにもかかわらず、昨年度と同等の稼働率になったのは、入院日数の増加が原因と考えられます。入院日数の削減が課題になりますが、基礎疾患や高齢なことに原因が考えられるので抜根的な解決は難しく、そのため入所者数の増加と退所後の空床日の削減で稼働率を上げていきます。

(3) 事故、感染症等の予防・防止の徹底

1) 職員間連携による事故の予防

報告の対象となる今年度の事故発生件数は、転倒骨折の1件だけで大幅な減少になりました。しかし、事故に至らない軽微な事例の多くの原因は初歩的なミス(センサーコール忘れ・動きのある利用者の居場所確認ができていない・見守りが十分ではなかった)や夜間帯など職員が手薄な時間帯に対応しきれなかったこともありました。そのような事例が発生した際は、原因分析・防止策を考え介護日誌や連絡ノートで周知しその都度大きな事故につながらないように対応しています。

2) 衛生管理による感染症の予防、職員の体調管理、温湿度管理、利用者体調変化時の迅速な受診

感染症予防について、利用者に関しては排泄後や必要時に手洗いと消毒(手洗いが

困難な場合は消毒のみ)を行い、職員に関しては、出勤時に衛生手洗いとうがいの実施、介助後に衛生手洗いを行い感染症予防に努めました。(うがいに関しては、感染症の時期に実施。)職員の体調管理については、外出時のマスク着用や私生活でもうがい、手洗いを行ってもらうように会議の場などで周知を行ってきました。環境面では換気や加湿タオルを行い温湿度管理に努めました。今年度は、入居者・職員間では風邪に罹る方もいましたがインフルエンザやノロウイルスへの罹患者は0名でした。

しかし、新型コロナウイルスの全国的な拡がりがあり施設内での感染予防のため利用者・職員共に手洗い・手指消毒を徹底している状況です。また、職員に関しては業務中・業務以外の外出時のマスク着用徹底や体調管理に努めるように周知し感染予防に努めています。

いつもと様子が違う・発熱など不調があった際は、看護へ報告し受診する・医師に状況報告をおこなってもらうなど対応しました。

(4) 人材の育成

1) 介護部門 新人職員プログラムの作成と活用、エルダー面談の実施

新入職員2名に対して入職3～4か月程は週間予定表を用い業務指導を行いました。面談についても時間を設け心配事や達成状況を互いに確認・共有しました。以降は業務・介助などできることが増えてきた為予定表を使用せず、日常業務の中での指導を行うようにしました。面談に関しては、シフトの都合上面談日を組むことが出来ないことがあり、介助後や記録を書く時間に声をかけるようにリーダークラスに伝え行うことが出来ました。

2) 看護部門

看護師及び介護員間の連携を密にして、入所者やショートステイ利用者の健康管理を行うことが出来ました。

3) 栄養部門 ムース食の常食化

調理員の技術的なレベル差はまだ完全に解消されてはいませんが、全体のレベルはあげることが出来ました。

4) 相談部門 医療分野の知識を広げる

利用者固有の疾病から高齢者全般の疾病まで、機会があるたびに情報収集することが出来ました。

3. 研修会、行事計画

(1) 外部研修会

日付	研修名	場 所	参加人数
6/17-6/18	道東三地区老施協研修会	帯広	6名
7/3-7/4	全道老人福祉施設研究大会	札幌	1名
8/26	管内特定給食施設等従事者研究会	帯広	1名
9/14	地域看護職員研修	帯広	1名
10/22	在宅褥瘡セミナー	帯広	1名

11/13	養介護施設従事者虐待防止研修	帯広	1名
-------	----------------	----	----

(2) 行事の状況

日付	施設内行事
11/3	年忘れ会 入居者40名 家族56名

4. 地域交流

(1) 実習生受入

受入期間	団体名	人数
10/28-12/13	帯広コア専門学校 介護実習Ⅱ	1名
1/17-1/23	帯広コア専門学校 介護職員初任者研修	1名
2/17-3/3	帯広大谷短期大学 介護実習Ⅰ	2名

(2) ボランティアの受入

来荘日	来荘者	来荘目的
4/9	味通	お寿司の提供
6/30	上士幌町年金者連盟	花壇整備 剪定
6/11~7/2	上士幌高校 (計5回)	「花壇の水やり」ボランティア
毎月1回	上士幌町老人クラブ	ウエスの寄贈
毎週月~金	みどり会	洗濯ボランティア

5. 会議開催状況

(1) すずらん会議

実施日	各委員会の報告、月次目標と反省、日常のケアの確認は毎月実施している。上記以外の検討事項	参加人数
4/4	今年度目標、行動計画の確認 新人職員紹介 委員会の振り分け	19名
5/9	その他検討事項なし スキルアップ研修「記録の書き方」	17名
6/6	その他検討事項なし スキルアップ研修「急変・応急処置について」	12名
7/4	夏祭りについて	17名
8/1	職員の健康診断について	16名
9/12	その他検討事項なし	16名
10/17	年忘れ会、について スキルアップ研修「尿路感染症と脱水について」	13名
11/14	年忘れ会について スキルアップ研修「パワーハラスメントについて」	12名
12/6	面会制限について スキルアップ研修「介護劇 3つのロックについて」	14名
1/9	その他検討事項なし スキルアップ研修「尊厳について」「残存機能を活かした介助方」	19名

2/6	インフルエンザ予防、ノロウイルス予防について	12名
3/7	その他検討事項なし	14名

(2) その他定例会議

開催日	会議・委員会名	内容
第3火曜	うちごはん会議	日常の食事に対する検討。 バイキング食への指摘事項と次回内容。
2ヵ月1回	入居優先度判定会議	待機者の現況報告と入居優先順位の確定。
毎月1回	行事委員会	夏祭り 年忘れ 行事計画。
毎月1回	排泄委員会	使用パット等の検討。コスト管理。トイレ設備管理。
毎月1回	環境整備委員会	屋内及び屋外の共有環境整備について。

【在宅福祉課（通所介護事業所）事業報告】

1. はじめに

利用者の個々のニーズ、身体状況や在宅時の状況を踏まえ改めてデイサービスの役割について職員全員で情報の共有を図ってきました。口腔ケアについてはより効果的に行えるよう音楽体操の時間から切り離し、昼食前に行うことで咀嚼向上や喉つまり防止に取り組みました。またこれまでは室内中心に歩行訓練を実施してきましたが、より楽しく運動が行えるよう屋外散歩という形で取り組みました。運動目的だけではなく季節の移り変わりや地域住民と触れ合う機会が持て、利用者にも大変好評でした。

これまでデイケアと併用している利用者に対しては特に運動内容や身体状況等と共有することはありませんでしたが、それぞれが別々に行うのではなく、互いに運動プログラム等の共有することで、運動やリハビリ等においてより継続性と連動性を図ることができました。

令和元年度の新規利用契約数は19名で利用契約終了数の13名より上回る状況ありましたが、利用契約終了者の大半が週2回以上のご利用で、多い方では毎日利用の方もおりました。一方、新規利用者は介護度が軽度の方が多いため、利用回数も週1回がほとんどのため、一日の平均利用人員は昨年の14.4名から12.8名と低下し収入減となりました。

これまで以上に新規利用者獲得する上でデイサービスの魅力や町内にあるデイケアとの差別化に向け、プログラムの内容を見直し検討を図ってまいります。

2. 重点目標の成果と反省

(1) 運営の改善

よりデイサービスでの状況を理解して頂けるよう、ケアマネをとおして積極的に体験利用受け入れを実施しました。それにより体験利用して頂いた半数の方が新規利用契約に繋がったこともあったので引き続き継続してまいります。振替利用については可能な限り欠席予定者に振替利用の声掛けをさせていただきました。令和元年度は主に行事（バスレク等）での振替利用が多かったです。事業所加算については単年度のみを対象だったが、これからも対象になった場合は取得できるよう対応してまいります。

(2) サービスの質の向上

これまで利用者のサービス提供利用中に職員会議を実施しておりましたが、報告的な内容で終わることや議論する時間も少なく、職員の一部のみの参加だったため勤務終了後に変更したことにより全職員の参加ができ、これまで以上に互いの情報共有や議論、介護技術等の勉強会ができるようになりました。また、先進事業の視察を実施し、職員の知識向上やデイサービス取り組みについて深められるよう、プログラム内容や意見交換することで意識改善ができました。視察後にはホール内の配置や飾りや工作作りなどに活かすことができ、職員の資質向上も含め、プログラムの内容等の見直しきっかけとして、今後においても他事業所の視察や研修会をと

おして深めてまいります。

昨年の事故報告は単独外出が1件ありました。改善として見守りの徹底と職員間の連携を深め、玄関施錠においても改修し、予防の徹底強化につながりました。

(3) 地域交流との関わり向上

コロナウイルス対応もあり、2月からはボランティア受け入れ中止となったものの、これまでどおりに来て頂いたボランティアポイントの方以外にも、町内の移住体験の方にもボランティアに来ていただきました。ライオンズクラブによるそば打ちや上士幌高校生によるトーンチャイム演奏、水木じゅん氏によるコンサートなど、在宅時においても日頃なかなか体験できないことができ、利用者にも大変好評でした。また屋外散歩の際には地域の方と交流する機会が持てましたので引き続き、積極的に取り組んでまいります。家族見学会については4名の家族の方と話し合える機会が持て、在宅時の状況や介護状況、またセンターでの取り組みについて意見交換が持てました。また事前アンケートにてサービスの質について行いましたが、今後においても利用者、家族のニーズ把握に努めサービス向上につなげてまいります。

(4) 健康管理

感染症が流行る時期以外にもうがい、手洗いの徹底を図ることで広がる状況はなく予防が図れました。また感染症マニュアルにおいては、より細かな対応方法等など見直す部分があります。コロナウイルス流行に限らず、手洗いの徹底はこれからも年中とおして継続し、施設内における消毒や車両の消毒についても怠らないよう対応してまいります。

(5) 機能訓練

介護予防対象者のみならず体力測定は全利用者対象に行ない、また記録用紙についても見直しを図ってきました。より在宅生活が行えるよう生活リハビリのみならず、おやつ作りや折り紙、ぬり絵等の楽しみが家に帰ってからも持てるよう取り組みました。またデイケアでの運動やリハビリなども参考にし、今後においても共有化を図ってまいります。

3. 令和元年度 年間行事の実施状況

実施月	日にち	行 事 内 容	参加人数
毎月		手作りおやつ作り (2、3月除く)	
5月	8日、9日、10日、11日	バスレク町内さくら見学	32名
6月	11日	バスレク町内ナイタイ高原	12名
7月	11日	家族見学会	4名
	24日	バスレク士幌町 道の駅	10名
9月	19日	足寄町 道の駅	8名

10月	5日、7日、8日、9日	バスレク町内紅葉見学	50名
	31日	バスレク帯広市 菊祭り	13名
11月	1日	バスレク帯広市 菊祭り	6名
12月	25日 26日 27日	年忘れ会	39名

4. 会議の開催状況

デイサービス会議、研修

毎月第二火曜日開催		
・業績報告、行事予定、研修会、前月目標反省と1ヶ月の目標、連絡事項など		
上記以外の検討事項		
実施月	内 容	参加人数
4/9	その他検討事項無し	4名
5/20	研修「車両事故発生時の緊急対応」	4名
6/18	研修「接遇について」	4名
7/9	その他検討事項無し	8名
8/13	その他検討事項無し	8名
9/10	研修「認知症について」	8名
10/8	その他検討事項無し	8名
11/12	研修「ハラスメント研修」	8名
12/6	その他検討事項無し	7名
1/14	研修「口腔ケアについて」	7名
2/25	研修「感染症対策について」	6名
3/10	その他検討事項無し	7名

5. 研修会の参加

日 程	内 容	場 所	参加人数
10/17, 18	ロータス音更通所介護事業所の視察見学	音更町	7名
11/27	第2回デイサービス部会 レクリエーションの取組み	帯広市	1名

【在宅福祉課（訪問介護事業所）事業報告】

1. はじめに

今年度の訪問介護員は現在提供しているサービスが利用者の自立支援に資するものとなっているか、特にどのような支援が必要とされているか、サービスが適切に提供できているかを意識しながら取り組んできました。

実績回数においては昨年度より83回多く訪問することができ、収入についても昨年度より若干ではありますが増加しました。その要因として新規利用者の毎日訪問があったこと、利用者のニーズに合わせ家事支援だけではなく身体介護も提供できたことが大きかったと考えられます。

また、核家族化も進み高齢夫婦の老老介護、独居の利用者が増加している中、子供の世話になりたくない、人に頼りたくない、金銭面で余裕がない、人には迷惑をかけられないとの状況で在宅生活を続けているケースが多々あり、より関係機関との連携強化が重要となっています。

2. 重点目標の成果と課題

(1) 利用者の望む在宅生活を実現

1) サービス提供と向上

ケアマネジャーのプランを基に、より利用者の生活の実情に合った個別訪問介護計画書を作成するとともに、利用者の出来る事、出来ないことを見極め、変化に応じて見直しやその都度更新していくことで利用者の変化に対応することができました。

2) 利用者や家族との信頼関係の確保

サービスの提供がスムーズに行えるよう、日頃から利用者の生活の様子、健康状態を把握するよう努めました。いつもと違った様子や言動があれば家族に連絡し状況を説明、対応することで家族との信頼関係を築けるよう努めました。

利用者の思いを大切にするため、サービス内容や利用における重要事項について説明しました。またサービスを提供中は親身になって相談にのり、今後も家族とのコミュニケーションが取れるよう努めてまいります。

3) 関係機関との連携

より良いサービスに繋げるために担当者会議に出席、必要に応じてケアマネジャーや各事業所との情報共有や連携を図り、利用者の複雑多岐にわたるニーズに的確に対応してきました。訪問時に緊急搬送されるケースもありましたので、引き続き関係機関や医療、家族との連携強化に努めてまいります。

4) 施設内の連携

居宅介護支援事業所との連携を図るとともに、訪問介護サービス利用者が、通所介護や短期入所を利用する場合には各事業所との情報共有の連携強化を図ることができました。

5) 危機管理の徹底

緊急時対応のマニュアルの確認を怠らないことや、日頃からリスクの分析を行い、事故を未然に防げるように努めました。また、利用者の緊急時カードの見直しを行い、転倒の多い利用者、目の見えない利用者については特に気をつけて訪問することが

できました。介護員の間でも話し合い意識することで事故防止に努めることができ、今後においても継続して取り組んでまいります。

6) 職員の資質向上と人材育成

訪問介護員研修や法人内の研修行い、介護知識の再確認やスキルアップに努めました。また実習生の受入れ、育成に協力してまいりました。

3. ヘルパー会議及び訪問介護員研修会開催状況

毎月第二火曜日開催 ・勉強会、前月目標反省と1ヶ月の目標、連絡事項など 上記以外の検討事項		
実施月	内 容	参加人数
4/9	その他検討事項無し	5名
5/14	研修「認知症ケア」	6名
6/11	研修「接遇について」	5名
7/9	研修「緊急時の対応」	5名
8/13	研修「プライバシーの保護」	6名
9/10	研修「事故発生再発予防」	6名
10/8	研修「表情顔色の観察」	6名
11/12	研修「尿路感染症」	6名
12/10	研修「高齢者と栄養」	5名
1/14	研修「高齢者の体の不調解決シート」	7名
2/11	研修「認知症ケアの悩み」	6名
3/10	研修「スキルアップ研修に参加して」	6名

【在宅福祉課(居宅介護支援事業所ひまわり)事業報告】

1. はじめに

「地域包括ケアシステム」から「地域共生社会の実現へ」との制度改正により、住民の主体的な支え合いを育み、生活上の困難を抱える方への包括的支援体制の構築野中、介護を必要とする人の心身の状態や、その環境等に応じたサービスを利用させていただくために、介護支援専門員としての役割が大きくなってきました。見通しのつかないような困難なケースもありましたが、個人や世帯が抱える複合的な課題や一事業所だけでは対応できないようなケースについては、地域の関係機関で連携を図りながら対応することができました。今後も一步一步進み、地域での実践を地道に積み重ねてまいります。

2. 重点目標の成果と課題

(1) 利用者・家族の在宅生活(在宅介護)の支援

利用者自身が自らの生き方をどう考えているのか、家族はどのように思っているのかを聞き取り、本人や家族が状況に合わせて意思決定ができるよう、わかりやすく情報提供を行い、個人の自己決定に向けた支援を行いました。例えば、認知症の人や障がい者、その家族を支えるためには、様々な関係者と連携しながら支える必要があり、変化を見越した助言や声掛けなどを行いました。本人、家族の誇りや生きがいを大事にして、持てる力を見つけ最大限に発揮してもらうための「気持ち」の支援に、今後も力を入れて取り組みます。

(2) 医療との連絡・連携に努める

生活を支援するために必要な医療知識を持ちながらケアマネジメントできる介護支援専門員が求められています。医療機関での入院日数が制限される現状であるため「ほぼ在宅、ときどき入院」という場面も多くなりました。日常の療養支援のほかに、特に脳卒中、大腿骨頸部骨折、心不全、時には、がんの終末期など、今後医療ニーズのある高齢者を地域で支える必要性が増すことから、医療関係者と互いの役割を見極めながら連携することが不可欠です。生活全般を総合的に支える適切なケアマネジメントを実施するには、医療の知識の習得だけではなく、医師や看護師とコミュニケーションを図ることも重要となり、今後も重点的に取り組んでまいります。

(3) 居宅介護支援事業所の業務体制の強化に努める

1) 稼働率の向上については、1か月の目標件数47件としていましたが、最終的に1年間の平均38件と目標には届きませんでした。新規利用者が年間で20件ありましたが、入院や施設入所が月平均2名程度あり、年間で24件利用終了となっています。また、町全体の認定状況についても、新規は月平均5～6件ありますが、いずれも軽介護者がほとんどで認定を受けてもサービスを使わない方や、住宅改修等により実績にならない方が大半でした。そのため、新規利用者の獲得については、町の持っている件数を受け持つよう協議していく必要があります。

2) 介護支援専門員は自らの資質を高め、アセスメント力を向上させ、マネジメントを

しっかり行う必要があります。研鑽を重ねつつ、援助職としての基本を継続して行えるよう、また“困難な状況にあるケース”ほど基本に立ち返ることが大切です。

- 3) ひまわり会議については「福寿を良くする会」に包含し実施していくこととしていましたが、その都度各事業所と協議していたため開催には至りませんでした。また、必要に応じて各事業所でも事例検討等が行われており、今後は、法人内の各事業所の介護支援専門員と研修や情報共有、意見交換の場を持ち、よりよいサービスにつながるようにします。

また、地域ケア会議では、地域の中の支援困難事例などを実際に課題解決していくために多職種・地域関係者が事例の見える化を図りながら進めているところで、あり方についても今後もさらに議論していく必要があります。

- 4) 法人と地域をつなぐ役割として、地域住民が集まる交流の場に参加することについては、今年度も、こでまりで開催する「裏めし屋」、上士幌町「にっこり交流カフェ」に参加することで、地域との関係作りができました。関わっていく中で、地域住民一人ひとり、地域における自分の老後の有り様をどのように思っているのか、誰もが誰かに依存して生きるのではなく、一人ひとりが、地域生活はどうあるべきかを考え、自らできることできないことを明らかにして、自分なりの生き方を地域の関わりの中で折り合いをつけて、生きていかなければならないのではないかとということも見えてきました。

3. 研修関係

(1) 法人外研修

日程	内容	場所	参加者
7/1	令和元年度帯広市介護支援専門員連絡協議会 公開講座	帯広市	2名
8/29	ひきこもり研修会	上士幌町	1名
9/18	認知症ケア講演会	上士幌町	1名
10/2～29 11/18～19 12/2～23 2/4～6	主任介護支援専門員研修	札幌・帯広	1名

(2) 事業所内勉強会

日程	内容	参加者
4/10	「聴く力」を高める10のチェックポイント	2名
5/10	アセスメントの6つのカテゴリーとは	2名
6/10	緊急時の対応について	2名
8/7	看取り支援においてケアマネジャーとしての心構え	2名
9/11	精神疾患について	2名
10/9	介護における「自立支援」とは	2名
11/8	身体観察のポイント	2名

12/9	終末期リハビリテーションの考え方	2名
1/8	高齢者に多い疾患の基礎知識	2名
2/12	疾患別に考える連携・確認のポイント	2名
3/11	自立支援について	2名

【地域密着課（地域密着型特別養護老人ホームこまくさ苑）事業報告】

1. はじめに

入居者の方についてはそれぞれの方の生活リズムで過ごしています。また、新規入居についても関わりを多く持ち、できる事、できない事を見極め、職員間の情報や連携を密に、関わる事ができました。今後も利用者一人ひとりと深く関わり、できる事、できない事を見極めその人らしい生活が送れるように関わってまいります。

稼働率については入院日数が少なく抑えることができたことにより、98.9%と目標を上回ることができました。今後も日々の関わりから変化に気づき、看護師、嘱託医と情報を共有し入院を防げるよう対応していきます。また空床日数を減らせるよう、入居の意思の確認を早い段階からおこない、各関係機関と情報交換することでスムーズに入居できるよう取組んでまいります。

感染症については発症することなく経過しましたが、コロナウィルス感染拡大防止のため2月26日から面会制限をおこなっており、職員及び来苑者については検温、手洗い、うがい、マスク着用などに気を付け感染防止に努めております。

職員の資質の向上については勉強会をおこない、リーダー、主任が主となり、現場で不足していることや職員が学びたいことを中心におこないました。今後も必要に応じて外部の研修など、目的を明確にして参加し学ぶ機会を確保してまいります。

2. 重点目標の成果と課題

(1) 利用者本位のサービスの推進

1) 入居者との関係づくりをすることができました。今後もより深く関われるよう関わってまいります。

また、生活環境については家庭的な環境づくりを意識し、利用者の方が居心地よく生活して頂けるよう、入居者の状況に合わせ環境を変えることができました。

2) 施設サービス計画作成のため、ケアマネ、看護師、介護員と情報を共有し、入居者一人ひとりの状況に合わせたプランを作成することができました。今後は、もっとご家族の意向を反映させてまいります。

3) サービス担当者会議については、ケアマネが中心となり定期的を開催することにより、一人ひとりの変化を速やかにプランに反映することができました。今後も定期的を開催し一人ひとりの変化に合わせプランを変更してまいります。

(2) 経営の安定

1) 空床日数を減らす取り組みが不十分だったため、入居の意向調査を早い段階からおこないます。

入院日数減については、内服薬管理や日々の関わり、バイタルチェック等を通し、安心・安全な日々が送れるよう関わる事ができました。また、嘱託医と情報を密にし、利用者の状況の変化に速やかに対応することができました。

(3) 事故、感染症の予防の徹底

- 1) 事故については転倒骨折事故が1件、車中での転倒が1件ありました。検証をしっ
かりおこない、再発防止策を立て周知し取り組んでまいります。
- 2) 感染症については予防の徹底により発症することなく防止に努めることができま
した。今後も感染防止に努めてまいります。

(4) 職員の質の向上

現場に不足していることや課題となっていることなど、勉強会を通して日々のケア
に繋げて行く事ができてきました。

OJTについては、職員からの日々の不安、疑問や介護技術、言葉遣い等、根拠を基
にその都度現場で説明することができました。

3. 地域密着課共通事業

- (1) 地域食堂裏めし屋については地域密着課で委員会を作り、メニューを考え提供する
ことができました。顔見知りとなった地域の方はもちろんですが、新たなお客さんも増
えてきており、毎回40名以上の町民の方に利用していただく事ができました。また、
ボランティアの参加も定着してきており、今後も委員会が中心となり進めてまいります。

地域交流スペースについては4団体の定期的な利用、その他たくさんの方々の利用
により、年間延べ3,789名の利用となりました。また、今年度もそば打ちボランテ
ィアの方による打ち立てのそばを利用者に提供するなど、利用者との交流も深めるこ
とができました。

- (2) 年忘れ会については、多くのご家族に参加していただき、ゲームや食事などを通して
楽しいひとときを過ごし、スライドショーにて日頃の様子を見ていただくこともでき
ました。今後も反省やご家族アンケートから出た意見を参考に、計画を検討してまいり
ます。
- (3) 運営推進会議については年間計画をもとに6回実施することができました。今後も
年間計画をもとに年6回の開催を目指し、委員会での話し合いの中での助言等をサー
ビスの質の向上や事業所への運営に反映させてまいります。

開催状況について

(委員数10名)

回	開催日	内 容	参加者
1	4/24	・H31年度 法人・地域密着課 事業計画	12名
2	6/21	・H30年度 法人・地域密着課 事業報告	11名
3	8/4	・各事業所の利用状況、利用者動向、職員動向 ・法人夏祭り参加	13名
4	9/17	・法人実践発表会の評価について	12名
5	11/5	・年忘れ会の参加について ・各事業所の利用状況、利用者動向、職員動向	8名
6	2/22	・各事業所の利用状況、利用者動向、職員動向 ・H31年度運営推進会議の取組みと次年度予定	10名

4. こまば会議研修

こまば会議（小規模多機能型居宅介護まつばと合同開催）

毎月第一金曜日開催 ・各係からの報告、リーダー会議、勉強会、連絡事項など 上記以外の検討事項		
4/5	研修「ケアプランについて」	13名
5/10	その他検討事項無し	10名
6/7	夏祭りについて 研修「認知症について」	10名
7/12	研修「ストレスについて」	10名
8/8	研修「社会人としてのマナーについて」	12名
9/6	その他検討事項無し	12名
10/11	夏祭りアンケート結果について・年忘れ会について	12名
11/5	研修「ハラスメントについて」	12名
12/6	年忘れ会反省、 研修「嚥下障害について」	11名
1/10	その他検討事項無し	11名
2/7	研修「看取りについて」	11名
3/11	研修「地域の理解について」	10名

5. 外部研修

日程	研修名	場所	参加人数
9/13	感染症予防研修	帯広	1名
9/14	看護師研修	帯広	2名
9/27	看護師部会	陸別	2名

【地域密着課（認知症高齢者グループホームむかし館・くつろぎ）事業報告】

1. はじめに

入居者の方についてはむかし館・くつろぎでの生活が構築され、それぞれの生活リズムで過ごすことができています。

稼働率については95%と目標稼働率98%には届きませんでした。原因としては、骨折、薬の調整等の入院による空床が246日、退居から新規入居までの空床日数が86日と多く出てしまったことがあげられ、今後は入居意志の確認をしていく等、空床日数を減らすよう取り組んでまいります。

感染症に関しては今年度もかかることはなく経過しました。

重度化に向けた対応、看取りについては、主治医や家族と話し合いを重ね、本人らしい生活を最期まで送ってもらえるよう取り組んできました。利用者や家族の方の不安はもちろんですが、職員の不安の軽減もできるよう今後も取り組んでまいります。

2. 重点目標の成果と課題

(1) 人材の育成

- 1) きずな会議で行なう勉強会について、今年度は管理者、リーダーが担当となり実施する事ができました。今後も体験型、質問型の勉強会を考えていき実践してまいります。
- 2) 認知症について勉強会等で学び、個人に合った対応を臨機応変に考えていくよう努めました。
- 3) 日々丁寧にに関わり重度化している状況を主治医と相談しながら、その都度対応を変更し関わる事ができました。
- 4) 大谷短期大学から2名の実習生を受け入れました。カンファレンス後、担当したリーダーと管理者で反省会を行ないましたが、相手の意見を引き出す話し方や、要点をまとめて伝えることが不十分という課題が残りました。

(2) ケアの充実

- 1) 記録に関しては、ダブルチェックの継続により状況把握に努めました。
モニタリングについて、今年度も期限が切れる前に会議を行なう事ができました。また、看取り状態になった方や変化のある方に対して、期限を待たずにモニタリングを行ない、プランの変更、家族への説明に努めてきました。今後も各ケース担当者がしっかりと入居者の方を把握し、職員全体で統一したケアを提供できるよう努めてまいります。
- 2) ユニット会議については、ケースカンファレンスを中心に話し合い、共通認識を持ち統一したケアをすることができました。
- 3) 変化があった時にはカンファレンスを待たずに随時検討し、ケアの方向性を出し対応する事ができました。
- 4) 日々深く関わることで一人一人を知り、記録を通して情報共有に努めました。

(3) 家族との交流

- 1) ご家族が面会に来られた際にはこちらから近況を伝えるよう心がけ、また、意向や不安などを聞くことで交流を図るよう努めてきました。面会については、コロナウィルス感染拡大防止のため、2月26日より制限をおこなっており、看取り状態などやむを得ない場合に関しては、検温、手洗い、消毒、マスク着用にて居室で面会をしていただいています。
- 2) 広報発行については、日頃より意識して写真を撮ることで様々な表情を載せることができ、近況を添えることにより、ご家族から好評であり、計画通り6回の発行を行なうことができました。

3. きずな会議、研修

毎月第一月曜日開催 ・各ユニット目標の反省・新目標、稼働率の状況、委員会、勉強会、連絡事項など 上記以外の検討事項		
4/8	令和元年度の各担当についてと、その内容について。	10名
5/13	研修「サービス担当者会議までの流れ」	11名
6/3	研修「ストレスについて」	12名
7/1	研修「認知症について」	13名
8/8	研修「社会人として」	13名
9/2	研修「利用者対応について」	12名
10/1	その他協議事項なし	13名
11/5	研修「ハラスメントについて」	11名
12/2	研修「看取りについて」	9名
1/6	その他協議事項なし	9名
2/3	研修「身体拘束について」	11名
3/10	その他協議事項なし	8名

【地域密着課（小規模多機能型居宅介護まつば）事業報告】

1. はじめに

今年度は登録者数が平均21.6名で推移しました。利用者動向としては、新規利用者が4名、契約終了者が8名でした。新規利用者はもちろんですが、現在利用している利用者の方の状態の変化等により、一人ひとりの在宅生活支援におけるニーズも多様化してきているのが現状です。利用者本人や家族から今後の意向をその都度聞き取り、利用者一人ひとりにとって真に必要としている支援とは何なのか、また、通い・訪問・泊まりの支援の頻度も一人ひとりに見合ったものになっているかなど、改めて検討・見直しを図っていく必要があります。

また、小規模多機能サービスに対するニーズも増え、地域から必要とされている状況でもあることから、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などの関係機関や、民生委員との連携、近隣の住民からの協力をいただきながら、利用者が地域の中で生活が継続できるよう支援してまいります。

2. 重点目標について

(1) 在宅生活継続への支援

1) 利用者が自宅でどう過ごしているのかを知る

日頃の関わりの中で利用者本人や家族、必要に応じて地域の方から聞き取りなどして生活状況を把握するように努めました。

2) 訪問の強化

主に独居の利用者や高齢夫婦世帯の利用者に対して状況に応じて訪問の回数を増やすなどしながら生活状況の把握に努めてきました。訪問をしていく中で個々の困りごとや課題などが見えてきた部分もあり、その都度必要な対応をとってきました。今後も訪問内容の充実・強化を図ってまいります。

3) 家族への支援

独居の利用者家族に対しては定期的に近況報告をして、必要な支援に繋がれるよう取り組んできました。また高齢夫婦世帯や家族と同居している利用者に対しては、普段の生活の中で困難に感じていることや状況の変化などを必要に応じて聞き取るなどしながら、家族と関わりを持つことができました。この取り組みを継続し、少しでも家族の介護負担の軽減につながるような支援を目指してまいります。

(2) カンファレンスの充実

変化があった利用者の方については会議にて深く話し合い情報を密にし、共有する事ができました。

(3) 経営の安定

登録定員については目標としている22名を維持し、一日の利用定員をほぼ満度の状況で受け入れることができました。

(4) ケアプランの充実について

利用者や家族の意見を聞きながら支援を行いプランに反映させていますが、アセスメントがまだ不十分な部分もあり、今後よりプランの充実を図り実践してまいります。

(5) 職員の資質向上について

現場に不足していることや課題となっていることなど、勉強会を通して日々のケアに繋げて行く事ができてきました。

O J Tについては、現場でその都度伝えることが不十分だったため、今後努力が必要となっています。